

(2) メンテナンス

RQ フレックスは測定部分が汚れると正しい値が表示されないため、使用後に洗浄し、時折キャリブレーションや状態のチェックを行う必要がある。

洗浄

アダプターは測定後に取り外し、水またはエタノールで洗浄する。

手順

ストリップアダプターを手前に引き抜く



・固くて引き抜きにくいことがある



本体の発光部分が現れる



発光部分に液体が付着していたら、慎重にティッシュペーパー等に吸い込ませる

・傷を付けないように気を付ける



ストリップアダプターを3つの部品に分解する



水かエタノールで洗浄する

・白いプラスチック製の部品がインターナルスタンダード



液体が残らないように、慎重に
ティッシュペーパー等に吸い込ませる



インターナルスタンダードを元通りにセットする



黒い部品の上端の丸い穴に、右の部品上端の突起が収まるように、組み合わせる

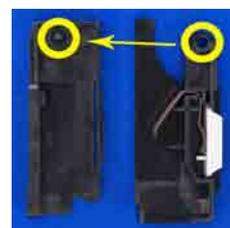


試験紙を挟む部分がちゃんと開閉するか確認する



ストリップアダプターを本体に差し込む

・インターナルスタンダードには傷を付けないよう、特に気を付ける



・溝からずれた状態で無理に押し込まないように気を付ける

・一度電源を入れて START ボタンを押し、きちんと秒数が表示されるか確認しておくが良い。表示されない場合はアダプターがきちんと入っていないということなので、もう一度抜き差しする。

RQ チェック

RQ フレックスの測定値がブレていないか確認するための RQ チェックは別売品である。セットには、説明書とバーコード 2 枚 (111 と 222)、灰色の試験紙が入っている。



手順

本体の電源を入れる



コード 111 のバーコードを入れる



表示が 111 になる



START ボタンを押す

表示が 5sec になる



灰色の試験紙を挟み、START ボタンを押す



値が表示される



灰色の試験紙を抜き取る



TEST ボタンを押した後、コード 222 のバーコードを入れる



表示が 222 になる



START ボタンを押す

表示が 5sec になる



灰色の試験紙を挟み、START ボタンを押す



値が表示される



RQ チェック用試験紙、
バーコードを抜く

・必ず、測定待ち時間が表示されてから試験紙を挟む

・48~52 が規定値。この範囲内に入っていれば OK

・必ず、灰色の試験紙を取り出す

・必ず、測定待ち時間が表示されてから試験紙を挟む

・48~52 が規定値。この範囲内に入っていれば OK

規定値の範囲内に入らなかった場合、洗浄、キャリブレーションを行い、再度測定する。それでも入らなかった場合は、メーカーに問い合わせる。